テレビゲームを用いた 見まね学習の比較

Comparison of imitation learning using video games

西田 圭吾 大阪大学 田村 陵大 同志社大学大学院 三浦 拓也 大阪大学 玉城 貴也 同志社大学

模倣学習

- ・人の言語獲得,楽器演奏,運動選手の運動 フォーム等は後天的に学習によって獲得され る技能
- これらの行動は他人の模倣により、効率的に 高い技能を獲得することができる
- その行動パターン生成・維持は運動出力とそれをモニターし、他人の行動と比較するフィードバック制御を行うことで実現される

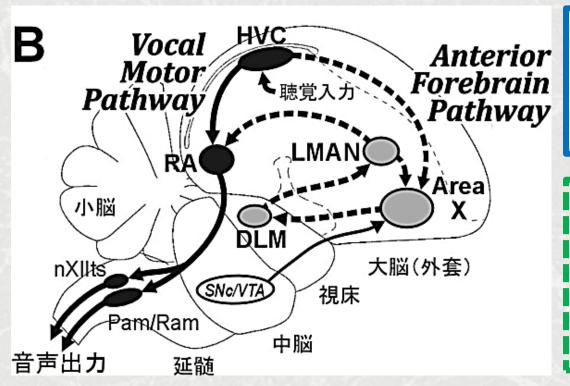
小鳥のさえずり模倣学習

鳴禽と呼ばれる小鳥類は、言語を学習する人間と同様、「さえずり」という複雑な音声パターンを他個体からの模倣により発達させる



図一部改変

小鳥のさえずり模倣学習の主な神経回路



Vocal Motor

Pathway(直接制御系)

•運動神経経路に対応

Anterior Forebrain

Pathway(迂回投射系)

•大脳皮質-大脳基底

核ループに対応

各神経核との大まかな対応

HVC:運動前野

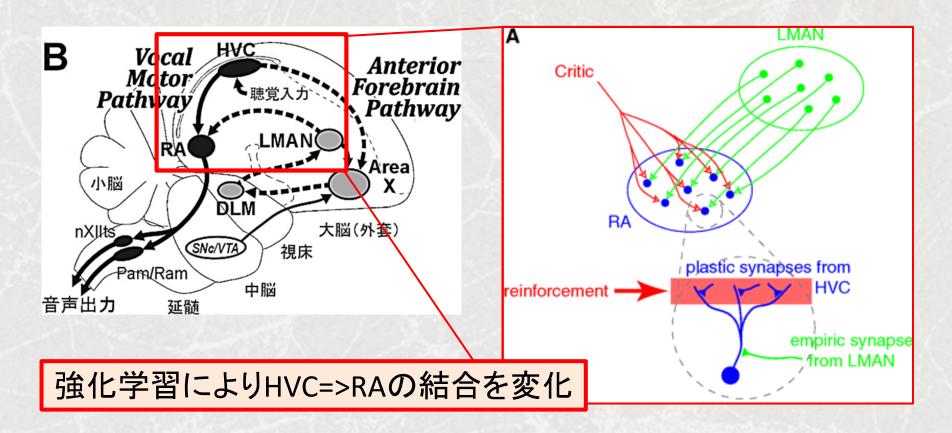
RA:一次運動野

Area X:大脳基底核

DLM :視床

LMAN :大脳皮質

小鳥のさえずり模倣学習モデル



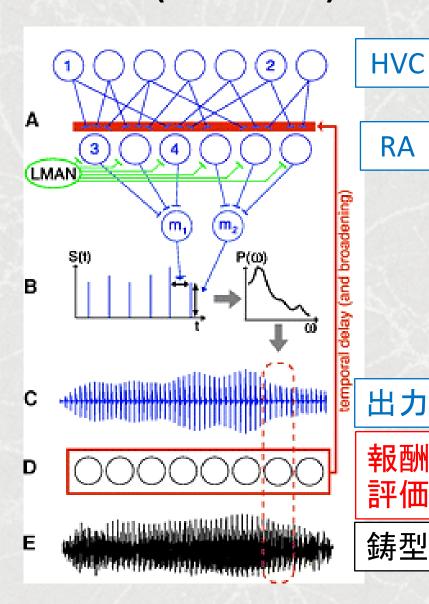
HVC:行動の時系列遷移パターンを出力

RA:モータへの行動出力

LMAN:試行パターンの揺らぎを生成(探索の生成)

Critic: 鋳型(お手本)と比較した際に与えられる報酬

鋳型(お手本)との比較による報酬生成



出力と鋳型を比較することで報酬を決定する

疑問

鋳型は脳内において如何に 表現され学習に寄与するのか?



仮説

脳内で特徴量抽出し終えた状態 のさえずりパターンを基に想起に よって再現される鋳型を用いて 強化学習を行う

WBAIハッカソンテーマ

仮説

脳内で特徴量抽出し終えた状態のさえずりパターンを基に 想起によって再現される鋳型を用いて強化学習を行う

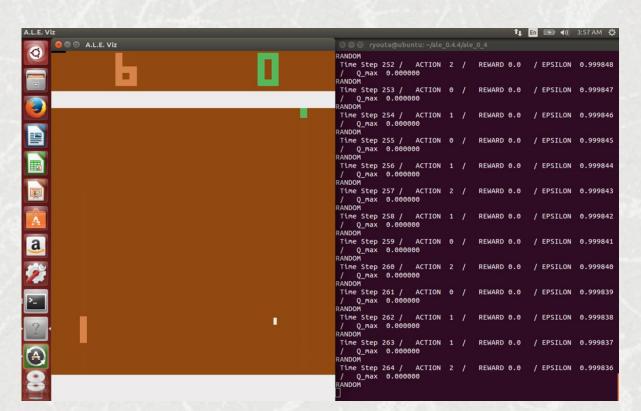


実装

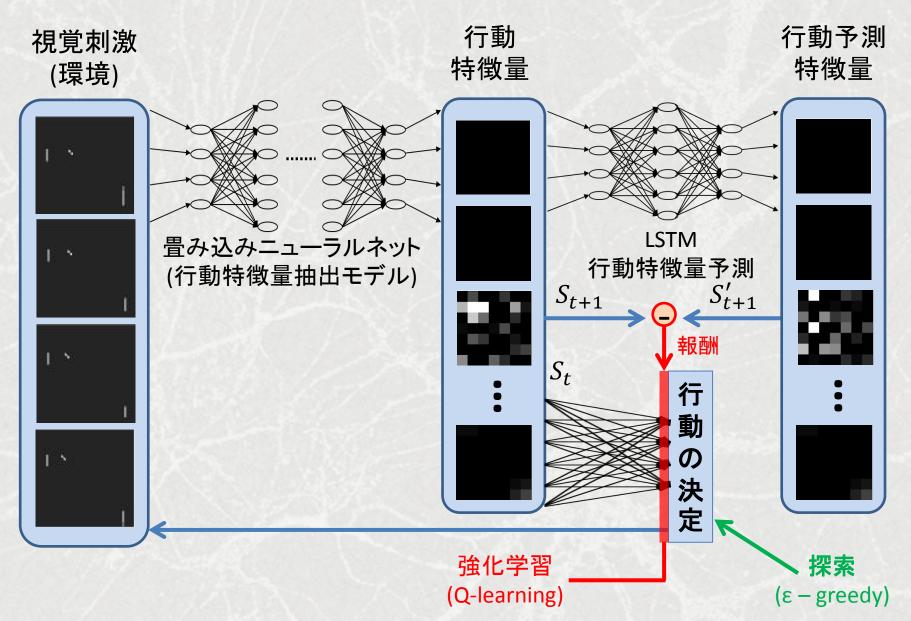
- ①鋳型(お手本)となるエキスパートとその受容野を作製し
- ②LSTMを用いて想起の内部モデルを獲得することで
- ③模倣学習を強化学習により再現できるかを確かめる

Deep Q-Network

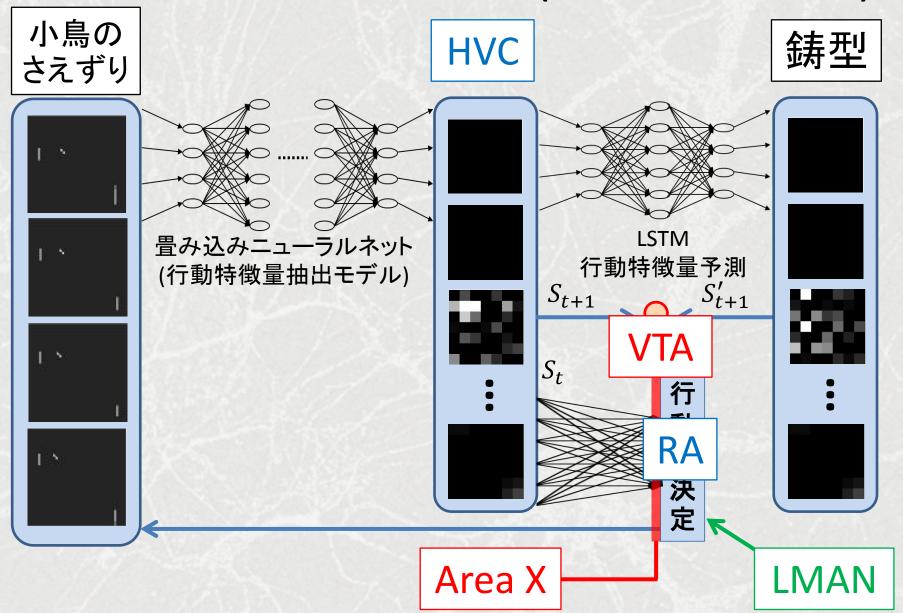
- 『Atari 2600』のゲーム49本を学習させたところ、 その半数以上で人間に匹敵、時には上回るスコアを記録した
- これを利用して小鳥の模倣学習モデルを実装



実装したアーキテクチャ

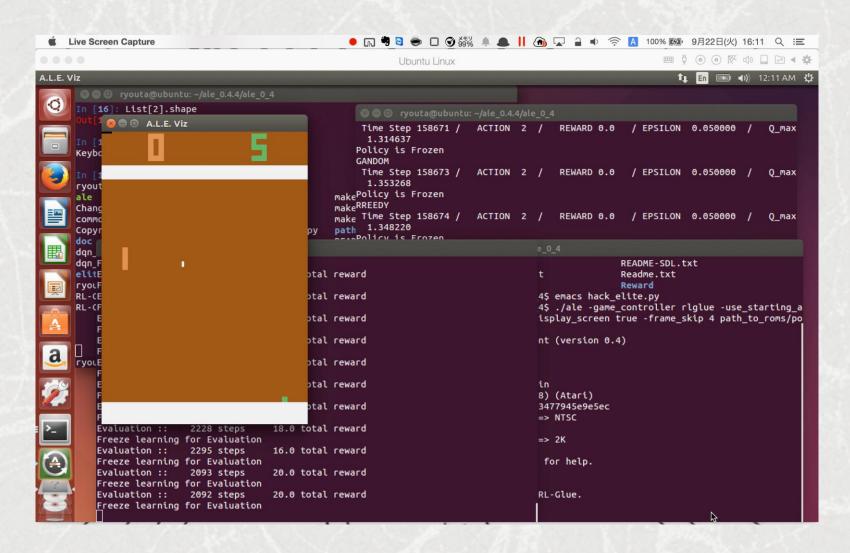


実装したアーキテクチャ(小鳥との対応)

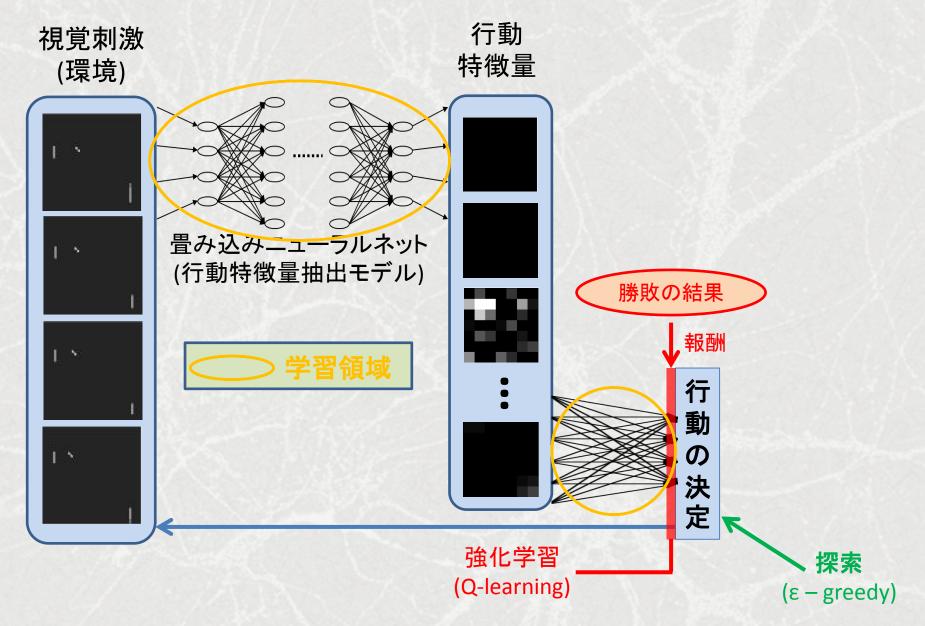


エキスパート(先生)の育成

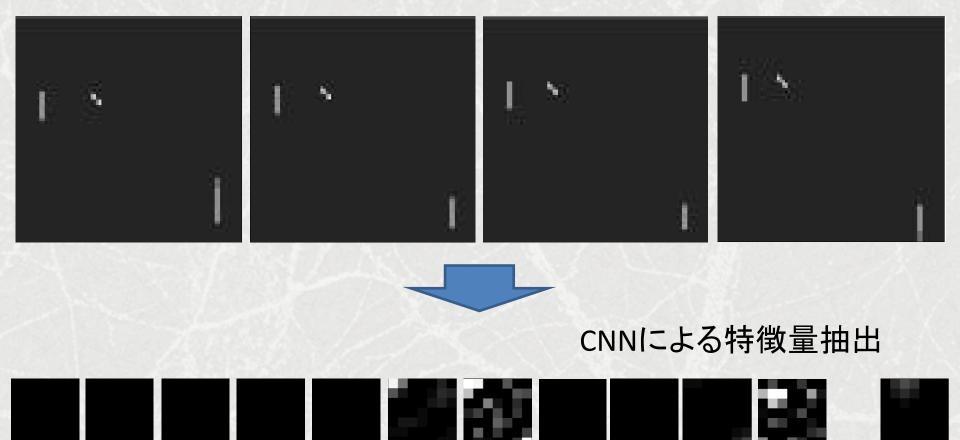
• Deep Q-Networkを使ったエキスパートの獲得



①エキスパートと受容野の作製(DQNの実行)



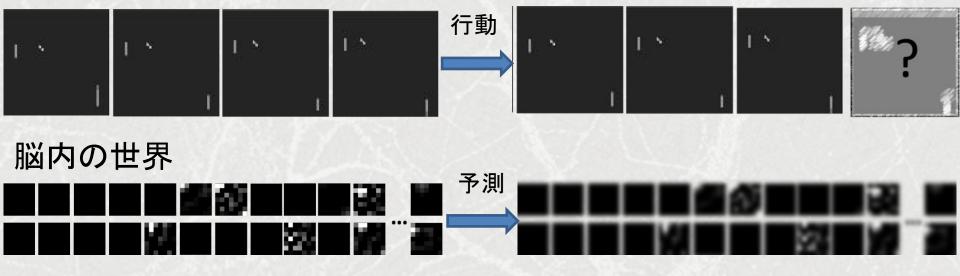
エキスパートの特徴量空間



7 pix × 7 pix × 64 個の出力

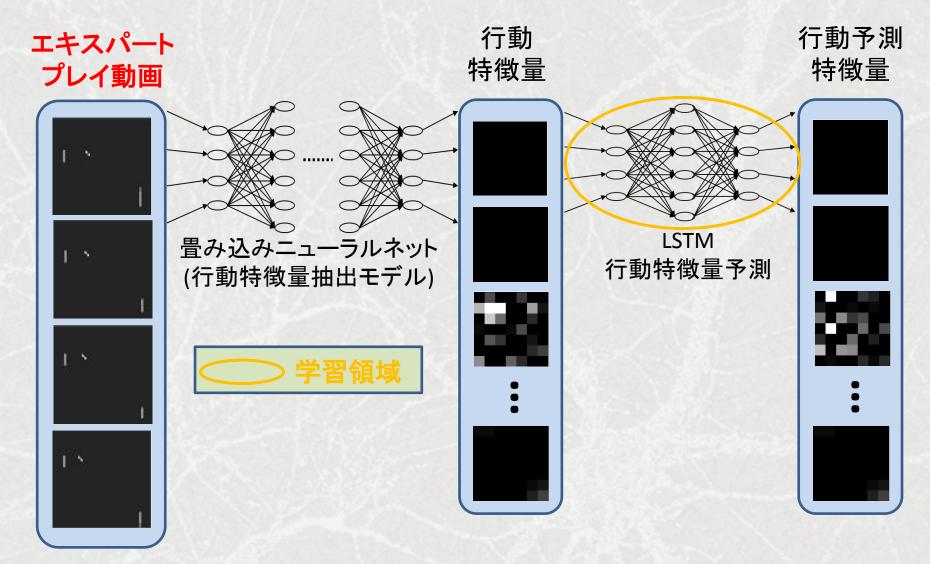
先生の行動予測学習

現実の世界

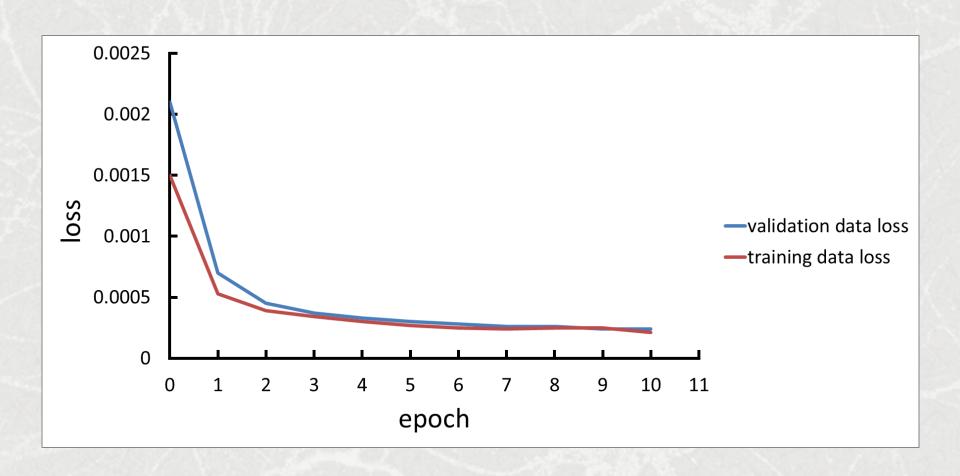


学習は試合の決着がつくタイミングで区切って LSTMの学習を行った

LSTMを用いた想起の内部モデル獲得

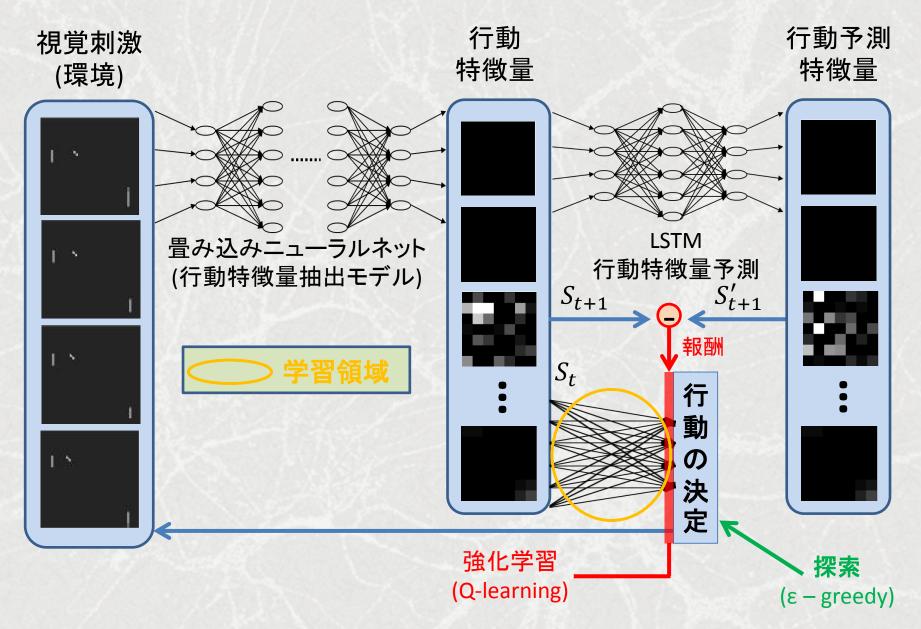


用いたLSTM単体の性能評価

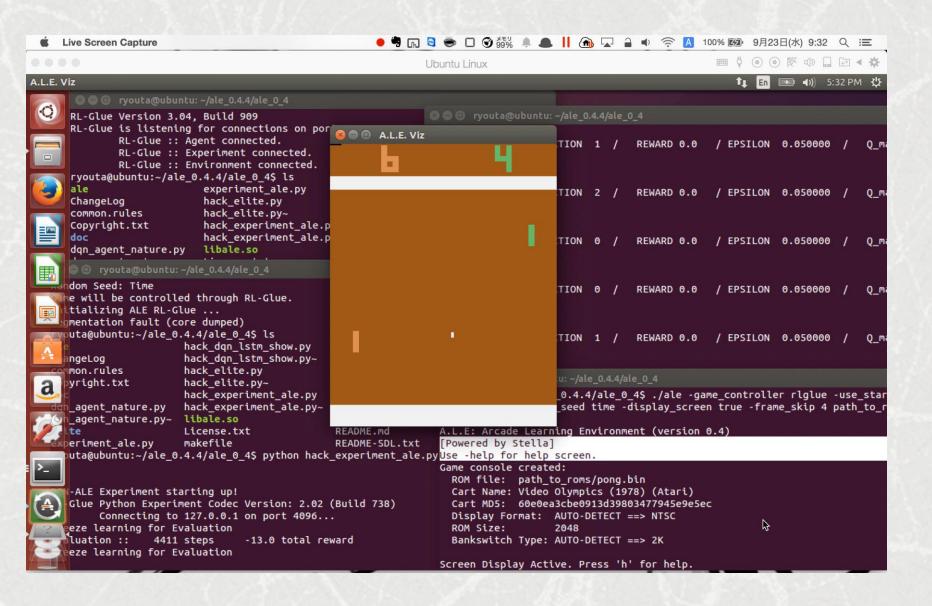


パラメータの不足により、十分な表現力が無い可能性があったが続行した

模倣学習を強化学習により再現

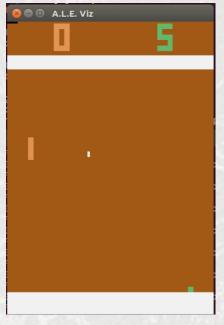


DQN+LSTM(1 epoch) 3時間の学習



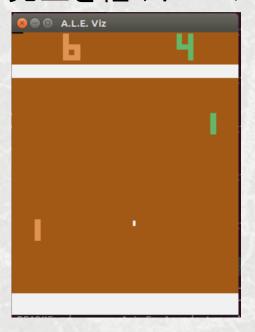
ハッカソンで得られたプレイ動画

エキスパート (先生)



学習時間 12 時間

DQN+LSTM_1epoch 先生を軽くイメージ



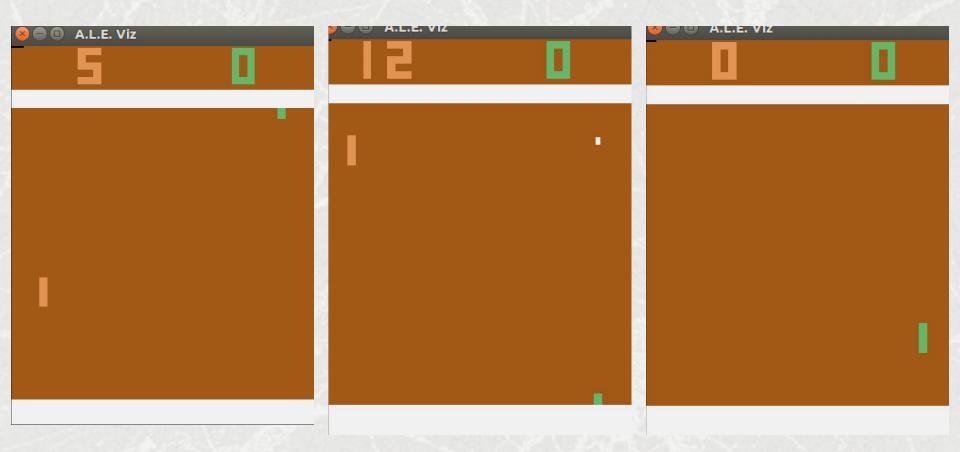
学習時間3時間

試合に勝利した際の報酬の割合が少なかったために、球は追うが最後の詰めが甘いエージェントの挙動が確認できる

30分での学習の比較

DQNのみ 完全に模索 DQN+LSTM_1epoch 先生を軽くイメージ

DQN+LSTM_10 epoch 先生を何度もイメージ



DQN+LSTMのエージェントは少ない学習時間である程度、球を追うことができるようになった

結論

- ・特徴量データから獲得した内部モデル(鋳型) を用いて、模倣学習を強化学習により実行で きることが確認できた
- 内部モデル構築の学習回数を変更したが大きな差は見られなかった(LSTMの過学習?)
- 提案されている小鳥のさえずり模倣学習モデルとは異なる部分(LMANの簡略化)もあり、今後はこのアーキテクチャをたたき台として新たな開発を進めたい

参考文献等

- V. Mnih et al., "Human-level control through deep reinforcement learning"
- Doya K et al., "A computational model of birdsong learning by auditory experience and auditory feedback"
- Ila R. Fiete et al., "Model of Birdsong Learning Based on Gradient Estimation by Dynamic Perturbation of Neural Conductances"
- ・ 小島 哲 "小鳥のさえずり学習の神経機構:大脳基底核経路と強化学習モデル"
- 和多和宏"小鳥がさえずるとき脳内では何が起こっている?"
- DQNの生い立ち + Deep Q-NetworkをChainerで書いた http://qiita.com/Ugo-ama/items/08c6a5f6a571335972d5

小鳥のさえずり模倣学習モデルとの対応

	小鳥のさえずり模倣学習 モデル	ハッカソン実装モデル
エキスパート	他の成鳥のさえずり	DQNで人を超えた実力の プレイ動画
特徴量抽出後の出力	HVC出力	CNN出力
探索	LMAN出力による影響	ε – greedy
行動の決定	RA出力	Q値(NNでの近似)による決 定
与えられる報酬評価 (Critic)	VTA? Area X? (評価方法不明)	LSTM出力とCNN出力との 二乗差による評価
鋳型モデル	実空間での周波数スペクトル	LSTMによる想起出力